

JFシェルナース物語 ~大分県編~

漁業者によるシェルナース基質づくり

大分県国東半島の南側に位置する守江湾は、広大な干潟を有し、豊かな漁場を形成しており、全国的にも数少ないカブトガニの生息地としても知られています。その中央に位置する灘手力キ組合は平成10年からシェルナース基質の製作を通じて貝殻のリサイクルに取り組んでいます。



集積された力キ殻

約15万本製作！ 850tの貝殻を活用！！

現在（H24.11）までにシェルナース基質149,000本（年間10,000本程度）の製作をされ、使用した貝殻の重量はなんと約850tものぼります。

大分県では、シェルナース基質のことを「ポンポコ」の愛称で呼び、漁船漁業を兼ねている方々も、その休漁期間を主にを利用して製作を行っています。

ポンポコ♪
ポンポコ♪



基質づくりの様子

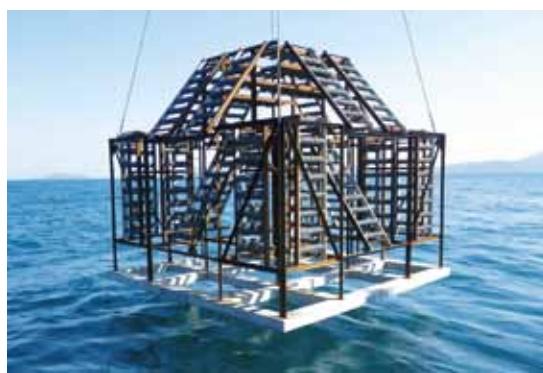


勉強会の様子

また、シェルナース勉強会を毎年開催し、調査結果を中心にシェルナースの効果について報告しています。



工場での製作の様子



これまでに2千基以上が大分県の海へ・・・